

プロレタリア通信

井庄主義者同盟中央書記局 1959.9.26

— 10.110ヤネットで、全階級斗争に —

突破口をつひつけ！

— 当面する階級斗争の現状と、学生運動におけるわれわれの任務 —

— 9.8 9.18 斗争の総括と問題点 —

— 安保斗争の危機 —

た、八月六次統一行動主・九、一八斗争とたたかつたの間にわかれれば生ずるものは、一方には「どうも障害がある、こそ実現する」という安保改定に対するアルジヨアジーの意志表示と通常国会休会中の調印通常国会再会後熱狂といふかなり意「められたスケジユルであり、他方には安保改定阻止斗争の運々とした進行否・停滞・後退といつつの危機的状況である。

統評大会が、わざ・つ斗打ないしことを宣言したよりといい安保斗争の方針を決定したのちに行われた八月次統一行動は、一極アルジヨアジャーナズムにも取り上げられるだけの動きは示した。だが、その内容を審議する時、大、二五では、さり方何として打ちだされた生産実力行使は明らかに後退し、全体としては日教組の斗争におさり・からうじて休面と保つにすぎなかつた。

学生運動は、こうした階級情勢のなかで、決して安

易な努力では達し得られない重大な任務を与えられた

ばならぬ。

そこで、その内容も著しく低下している。実

力行使ではなくて、都内四ヶ所から求心デモ、その

スローガンの中心は、砂川である。(安保は相対的に右退した。)も、さるかに有るが、砂川(色)でそめられ、その基調をなしたのは、不可避

的民族主義(「日本の中の外國、アメリカ基地で」)

……」であった。

安保改定阻止を柱目の斗争課題とい、独自に(他の

諸斗争、例えば農労の合理化反対斗争、官公労の賃上げ斗争等と共に、なお独自に)斗争を組織し、断乎と

して労働者階級の實力斗争を粉碎する、という方向は

決して實現されることはいなばかりでなく右退しつづける。

学生運動は、こうした階級情勢のなかで、決して安

易な努力では達し得られない重大な任務を与えられた

(2) そろは、10・30 ゼネストで、金融緩和争に、実戦口をひらく

二、階級斗争の現状と

指導部編成の行く手 — 民同の反革命 —

リニア通書

シ一の現在の組いは明らかにしたが、そのなかで最近一二三週間にいくつかの政治的構成の動きが活発化された。だがそれは斗争を前進させる方向でか?

春斗の裏切りを各单産大会での自己批判でまかし、自分の椅子を守り続けてきた民同幹部は8月末の審評大会でその怠け上げをやつてのけた。自己批判もいいかげんにした上に、運動方針はすべておしあ通した。50万円カンペによる300人の中小企業オルグ団の創設は、革同盟反主流派の極端である中大企業を、上からのオルグ団（民同一色にするにぎまつて）で、全部民同で固めようとするものがあつたことは察知の通りであつた。この民同の悪辣なたぐらみは、反主流派の愚能さによつて、ほとんど抵抗なしに成立した。何よりも争う方針、行動方針の対置によつて、対決を迫るべき反対派は、地諒で決定したゼスト方針の提起も、日共が反対しておろさせ、單に政党支持問題とオルグ問題でのみ多少の反対をこころみたにとどまつたのである。

② 社全大會

社会党大会は於ける西尾問題は、二つして生みだされたのである。何坂を理論的中心にした「社会党を強化する会」は、現在の筆者主導派を占める民団左派の結果論であるが、こゝが西尾除名の一への急尖鋒となつたのは理由のないことではない。安保斗争の感覚と比例して、西尾派の安保解消説・条件斗争論は、下都傍竹者大衆に社会党に対する不信任感をせすりおかながつた。それは一方で、金剛の分裂活動に增長の余地を与えるとともに、民同支配にくみ入れられぬ思想派左翼を一層替へさせた格らう。したがつて、西尾除名問題の提起と、それをめぐる5年を想定させる激烈な派内斗争の展開は、社会党の一つの危機の表現であり、安保斗争の現実の展開の反映であつた。その限りで、西尾陰茎は安保斗争と全く無縁なところから生れたのではない、一定の評価

同時にこれに対する西尾派(全労派のケルトラ派態度・社会党西尾派)あるいは民主社会主义(一)は河上派との次第によつておしつけられたものとはいき、第一組合の仲長等にうらづけられ資本家の直接の援助を受ける、彼らの自信の一歩を示すものとして注目しなければならぬ。大阪府連の分裂のような事態は今

后も續くであろう。西尾派の新党結成も可能性としては存在するし、こうした分離は階級斗争の反映であり、資本家の手先と即ち出すものである以上、歓喜すべきであり促進すべきである。

だが、この西尾内閣を根柢とした社会党内斗争に多くを期待することは断じて許されない。何故なら、明らかなるように、この西尾内閣は社会党の左傾化、あるいは左派が直に議政的方面に向うとしたものでは全くなく、社民の支配権の回復化、民謡左派の増加更効力内のヘゲモニーの確立主義としているだけだからだ。だから西尾内閣たしも10月の社会党中央会も、分離大会としてそ

前に同意しているからだ。徹底的に革命的に党内斗争を展開したことなどという事はない。

したがて、民間が金帝に対して正面きつて喧嘩をうつたことに、より・民間は相対的に左傾化する、彼らが、下部の組合活動家等から見離されないためには、一定の左翼的ポーダと、斗争の人々をシユールを提起することは回避しない。7月15日(日)の評論員会の7月10・12 漢力行使11月半一下向にゼネスト止めさし、10月15日までにストライクを実行する」という、安保斗争の方針は、彼らはスケジュールのない状況に比べれば、はるかに有利であり、その限りでわれわれは「左翼的本一ぞれであることを見抜きつゝもこれを徹底的に利用して、斗争を実際にもえた、せなければならぬ。だがそれは、まさしくわれわれの主体的力量と主体的活動の如何に向かわる力であつて、労働運動全体の潮流の方向を見失つてはならないのだ。

⑤ 秋の斗争は開始された! 一だがその動く手は? —

秋の斗争はこうした民間のまきかえし、民間反革命の路線の上でだ、かわるのだつた。

われわれは、このひがれたレールをぶちこわし、その杆をとりはらつて革命の方に向ひ労働者階級の斗争の工本ルギーを解放しなければならない。選挙の情勢の發展の中で具体的方針を提示し、それに対応する大がつて斗争を組織することである。— そして、学生運動におけるわれわれの任務は、このレールの棒をぶちこわして、安樂半身を燃えさせるために、学生運動を直置づけ、方何づけ、もえ火をあらべることだ。

そのため、秋の労働者階級の斗争の發展に対する全般の燃え火を燃え火ねばならぬ。

民同は勝利し、その体制を不動にする300人のオルガニゼーションをうけた。だが、民同支配が決して安定したものでないことも、裏窓されたのである。社会党支持の西本がそれである。政党支持の問題は、それ自身を存するならばまつたくのナシセシスである。左翼はこうしたミツナイ問題ではなく、春斗・安原斗争の裏切りの醜態、金句の裏切りの方針への対策の対置に過ぎない。一方、反主義者たゞクロし、追放するためには活動しなければならない。だが、歴史百年、改良主義に醉心している日本にとつて、こうした方針への対応は不可能であつて、対決戦を強いて求めなければ、こうした内題に寝若かざるを得ないのだ。したがつて政党支持問題が唯一のもつともはげしく斗われた東京だつたといふことは、はさしく左翼（日共）と右翼（公連）の戦争をして示していた。

だが同時に、社会党支持一つを求める元同も起が頭され、あくこと表示して、うつ伏せ、それには二つの方向からおこつて、右（右）左（左）と他は左から、八重の度重なる裏切りは、西竹君大統領の内部に二つ以上の組合不信を生み出した。ブルジョアジーはこゝにすくとずワナビと打ちこんだ。金秀とキ先とする第一二組合の結成である。最近一年の間に、第一二組合は急速にのびて、いわゆる討論、まだ全体会からみればとるにいたらぬが、これは労働運動が危機の表現であり、民同組合に対する不信の急進化した表現である。同時に、民同に対する不信は戦争的労働者の問題として、民同へ社会党一に組織されない無定派組合活動家の増大としてあつた。われ、その一部は確固として前後からまた勞働運動内に深く根き下すに至つて、いたために、因に吸収され、こうした下部の運動家の方に向が総選挙大会の社会党要求として現われたのである。

民間支配は放置すれば崩壊するといつのが、民同幹部の共通の認識として、一層深刻なものとなつた。

本家の争いの原則は何か。それは「合理化絶対反対! 一人の首切りも許されない!」である。斗争のしくみ方は、全労働の統一斗争によって、個々の企業の資本家とではなく、労資本家全体に対するものでなくてはならず。またそれは全産業の労働者の階級的統一斗争による支援へと發展するものでなくてはならない。ここには、今やいかなる改良的解決の方策もあり得ない。問題が個々の企業での労資の対決となるならば、不可避的に「企業はつぶされない」といつた方針が基礎におかれ、「企業再建」のために労資が話し合う、といつた方針へおし流される危険はさわめて大きいのだ。また單に労働のみの斗争とこれなるならば、労働の斗争は比較的安全した階級闘争のなかで孤立し敗退を余儀なくされただろう。労働の斗争は、實質上、合理化反対の把え業の斗争と結合され、さらに全労働者の階級的統一斗争へとつなめられ、階級斗争を激化させる口火とされることはなしには勝利しないのだ。一現在の労働の斗争には、非暴力的に斗うこと、全労働の、全労働者の斗争として斗われるること、これ以上には、いかなる特効策もありえない。(註)

だが、労労、労評の斗争方針はどうか。

労労は9月22・23日の「戦会式を開き、具体的戦」を決定した。だが、この基調は、9月4日の中斗争決定以前で、それは、現在の組織の状況と資本家の攻撃からみて、ます入るところからストライキに入り、しだいに、全国斗争、労働の統一斗争に発展させてゆくこと、うそのであった。「ればよくいえば」「極端派、全体吸収方式であるが、実際は斗争を各企業別に分散させ、改良の方針の導入を許し、統一斗争、全国斗争への発展をさせへばこそへこくりのべおくらすいわば「超長期斗争」戦なのだ。企業再建のための話し合いで、全面的に推進されてはいけない。

時局のスト・三井・杵島に首切りが出来た場合には、二瀬は無期限ストに切り入る。三井・杵島の戦は、そのときめる。全国斗争の発展を志向し、2・10日旧大手14社の各委員会・1時間50分スト、10月20日24時スト・を実定した。

「拠点突破」方式は、依然として堅守され、特に斗争至盛のまつたく深い日鉄二瀬を先頭にたてて、戦術は大きな問題をはらんでいる。いかに国民最左派とは云々、市民であるかぎり、革命への展望の欠如は、不可避的に改良方向におしながくれるを得ない。

総評の方針は、これに対応して、一層露骨に悪辣であり、改良であり、完全なサホタージュの方針である。統一斗争ではなく、労資争、実力行使ではなく、盛大起大会カンペニア、11月上旬の福岡での拡大評議員会、5万人を動員しての「安保改定阻止、労務支援、労業反対決起大会」《「すすめ」!!!》は、当初の総評監

時大会の「プランを引き下げる」のだが、これは非妥協的且統一斗争実力行使をサボリながら、「総評」といたしましては、労争を支援する争をくみました。レという形だけとのえて、ノルマだけによる結果どうという意図がみえずして、18日の総評評議員会から井堀発言はこうだ。「拠点突破」といっても、現在一ヶ所に集中するが、外方策はない。労業の状況がどれだけ悲惨なものか、それが敗退に徹底するかどうかに斗いの成否があるといつてもいい。皆がの気持ちになつてほしい」!!

労争の争が、労業反対・労業改善争になつて、黒川村田運動!!

総評の労争争への方針は、完全なサホタージュの方針だ。太田、九州などへ行けばゆくなど、そのみをすいた争のうちは明かになる。労争の労争者は、こうした構とがち破つて進むことなく、には、極度に困難條件をあしつけられるのだ。

（この戦について）は、芦竹連動全般に關するアロヨ道です。——詳細二語つかにされるが、こゝでは基本戦のみを明らかにする。——半戦は、すでに開始された。——
産業は、全面的合理化・企業整理業の提出に対し、ます三井・杵島・日鉄二瀬が16日午時間ストに入つて火盃をさつた。
競評の「」を迎へる日教組も、提出阻止、研修会で、車従春胡隈反対で立ち、九月の第一車の牛いに次いで、福岡・高知等に日提出り。
府県では、休職斗争とも含む斗いを準備している。
國鉄は、合理化五ヶ年計画の進行のなかで、その一つの結果としてあらわれたダイヤ改正による労働僵化に斗ふあうとしている。動力労働組の牛い（中止した。）また志免の松下げ、元山は、いよいよ入れを目前にし、戰斗体制に入つた。王子はスト权を、圧倒的多数で握立し、官公房は、秋期運上半戦への体制をかためつあり中小企業の「岳陽のない斗い」は続いている。
秋の牛いは、すでに火盃をさられ、石炭をはじめ、基幹大産業、中小企業における合理化失業反対斗争に重兵をあげ、そこから安保阻止の全国斗争一丸にあげこゆくといふ基方針のもとにいる。
だが、競評の方針は、これらの斗争を全階級的斗争へ導くものではまつたくなく、その逆なのだ。然評は16日評議会（前の大争合に相應する）を開いて、秋の斗争の具体的方針を決定した。
その内容は、全面労働の合理化失業反対斗争に重兵をあげ、そこから安保阻止の全国斗争一丸にあげこゆくといふ基方針のもとにいる。
それは、「合理化絶対反対」一人の首切りも許されないとある。斗争のしくみ方は、全労働の統一斗争によって、個々の企業の貢本家とではなく、労資本家全体に対するものでなくてはならず。またそれは全産業の労働者の階級的統一斗争による支援へと發展するものでなくしてはならない。ここには、今やいかなる改良的解決の方針もあり得ない。内閣が個々の企業での労資の対決とこれをならば、不可避的に「企業はつぶれまい」といつた方が基盤におかれ、「企業再建」のために済賛が話し合う。といつた方何へおし流される危険はさわめて大きいのだ。また單に労働のみの斗争これなら、労働の斗争は比較的安定した階級關係のなかで孤立し敗退を余儀なくされるだろう。労働の牛いは、實上、合理化反対の把産業の牛争と融合されて、さらに労働者階級的統一斗争へとくかれられ、階級斗争を激化させる口火とされることはなしには勝利しないのだ。——現在の労働の牛争には、非妥協的に斗うこと、全労働の、労働労者の牛争として斗われるること、これ以上には、いかなる特効策もありません。（註）
だが、労労・競評の斗争方針はどうか。
労労は9月22・23日の「戦会式を開き、具体協議」を決定した。だが、この基調は、9月4日の中牛で決定と成っている。それは、現在の組織の状況と資本家の攻撃からみて、ます入るところからストライキに入り、したがて、全労の統一斗争に發展させてゆくといふのである。これはよくいえば、「拠点突破」、全体吸収方式であるが、實際は牛争を各企業別に分散させ、改良の方何の導入を許し、統一斗争、全国牛争への發展を（）へ（）へ（）へ（）のべおくらしいわば「超長期牛争」戦なので、企業再建のための話し合いに、全面的に投入されてはいけない。

「時」いかにそれが「労働者管理」「無償」であり、不可避的トリアコチ主義者と異なるところのない改良主義においへらざる見えないので、ブルジョア支配と私的所有の大過の中での「労働者管理」が、階級斗争の沸騰した状況なして、社会主義への「管制階地」になりうるなど、といつのは、子供じみた妄想でしかない。「無償国有化労働者管理」と「私有財産制への挑戦」であり、「ブルジョア权力と私有財産制に全デロレタリヤーを斗争へ動員することを準備する些面の過渡的要求」であるとすカトロフキートマティスト・カナイーター主義者達は、労働者は「國家权力をとる用意のある時ののみ、個々のブルジョア財産の国有化の要求を提出しすべし」というのはスターリニスト富優のスコラ哲学であるといふ。彼らは云う「ブルジョア国家权力に対する労働者の斗争は、不均等な發展において成熟する」「不均等發展の法則はここで正しく通用されなければならない。」(?)だから労働者は「直接權力奪取の斗争へ向う前に、情勢に応じて、一産業武には、個々の資本家グループの財産の没収の要求をかかげる」の如く、個々の資本家グループの財産の没収の要求をかかげる」のは正しい。「それは急一進に労働者へ広められ、國家权力との衝突へ進むであろう。

いかにも「労働者の階級意識の成長は、不均等であり、斗争の発展も、産業によつて、あるいは地域によつて不均等である。」へだ々、それは前記の指導部の存否にかかつてゐるのだ!『情勢の發展の中で、工場占據、労働者管理が、自然発生的にも開始されることは、必ずある。(特殊的には、中小企業などで、そこだけ労働者管理に入ることもある)』こうした労働者管理は、労働者で生産の主人としての自己の能力を確信させ、ブルジョアジーの退散を決意させる美で、巨大な學校の役割と譲るであらうし、意識的前段は、この個々の企業での労働者管理を全社会の壁壘へ、同時に権力の奪取へと全階級斗争を導くねばならない、そしてこのようにして斗争が發展する時にのみ、この労働者管理の斗争は、权

だが、斗争とこのような方向に導く意識的前進が存在せず、階級斗争が全体的昇場に發展しあず、あるいは斗争が労働者の自然發生にまかれていくならば、この労働者管理はブルジョアジーの反発の前に維持しえず、「国有化」のスロー・ガンは、ブルジョア支配強化のスロー・ガンと化するであろう。最近でもう7年（1954年）旧のインドネシア労働者の企業、農園丘陵の斗争、フランスの反ドガール斗争に際しての工場占拠斗争は、こうした意識的前進の欠陥によつて、巨大な革命的空氣を労働者にうけつけながら敗北した。

たとえば、資本主義の一連の危機、ブルジョア支配の脅威、階級斗争の全般的昇場（その内に不均等は当然あるとして）、そして確固とした意識的前進の存在という條件から切りはなされることは、されど「労働者監視」は決してそれだけでは勝利に導きはしないし、まして「国有化」のスロー・ガンは、こうした條件のない時に、何の意味もないばかりか、改良主義者やブルジョアジー有利するばかりである。

日本の階級斗争の現実、資本主義一定の發展と並んで、ブルジョア支配は夫しく危機に瀕しているとはいえるが、労働者階級の斗争は階級協調主義の宣伝と民間支配の中で極度の困難に直面しており、しかも、確固とした意識的前進が労働者の中に深く根づ下してはいない、という現実のなかでの「国有化」のスローガンは、「一無償」であつて、自己満足的につけ加えようとも、労働者大眾と権力との衝突へ導くよりは、國家に対する反動的効果的争を妨害し、ブルジョアジーをたすけるものとしかならぬのだ。

現在の情勢のなかで提起される「炭鉱国有化」のスロー・ガンは、いかなる意味においても反動的であり、炭房労働者の斗争を歓迎する。

〔註〕米蘇國有化について
こうした労働の斗争に対し、「展望と暗示する革命の方針」として、「米蘇國有化」を提起する部類が、社会民主主義者、「現行マルクス主義者」及び「トロツキードグマ・イストの中」に存在するが、これほど裏切り的で、徹頭徹尾改良的スローガンはない。
ブルジョア支配のもとでの国有化が、私的所有の剥削への後退、譲りものであることは明らかである。ところて、現代の国家、独立資本主義のもとで、固定資本の極度の巨大化、自己金融の方式の導入、資本市場の外墻化、景気の不安定による投資リスクの増大、等によつて、國家資本主義導持のために再生産過程に介入する。そして、固定資本のあまりの膨大さ、あるいは企業危険の大きさ、利潤率の低さ等によつて私的資本では維持しないのが、資本主義的再生産には不可欠の部門は私的所有の固定資本化であり、集中的擁護にはかならない。國家舊式資本主義経済における国有化は、そつしたものにしかならない。(通産、運輸部門一部便、語話便、鐵道)あるのは、エネルギー産業。(ガス、水道、電気は、公益事業として国家に保護される)原動力産業等。
したがつて、権力の問題をぬきにした國有化のスローガンは、まことに私的所有の変化を助ける内容しかもんじず、國家独立資本主義のもとでの国家への公共性という改良主義的幻想を助長するもの以外ではありえず、こうした幻想にとりつかれて、社会主義への漸次的移行の展望へつながり、「国有化」と位置づけようとする「現代ブルジョア主義者」の国有化のスローガンは、まさしく反動的反階級的ものとして、破棄されねばならぬ。
現在の日本の石炭業は、こうした国家の介入を要請する方向に

動いてゐる。石油への需要は、粗細加工用で減少し、車両用に増加する。機械からソバヤ豆類生温熟で、豆類で、豆油、豆粉、豆粕等の生産が石炭に代り、豆粉等の燃費率は、一九五三年の三八・八から五八年には四三・二六にまでなっている。こうした動きによつて、「重油規制による石炭安定策」「英王油徙」の二年前の政策は、一八年度転換し、「重油價格の線までの石炭價格、コストの引下げ」「油王炭徙」、「ブルジョアジーの要求となつてゐる。だから、通産省省力官によつて種々の方策が、提起されたが、いずれも根本的なものにならぬが、ついで、重油價格の線までの石炭價格、コストの引下げ」「油王炭徙」、「ブルジョアジーの政策は、不景氣群小金の多くを塵埃にして、新技术の全面的導入により労働生産性を高めコストを下げる」とある。現在の段階では、まだ國有化は、必須の要請とはなつていながら、一定の條件の下では、無償國有化はブルジョアジーの要求となつてゐる。すぐに国賓の介入の方向は看々と進んでいる。

こうした時に、「國有化」を云々するのは、まさしく、労働者との妥協的斗争を資本家に走りわざすものに他ならない。

問題は、「無償國有化勞働者會議」でも基本的には不法である。しかしに、無償は、國有化への不法としては、炭鉱の個別資本家にとっては、資本にちがしない。だが「無償」是不可能として、一定の條件の下では、個別資本の反抗となる程度抑制しても、依然で國有化することはまつたくなりうることである。へど、國家主義、社会主義、これらに全体的階級斗争の状況が、このスローがシ

「へくものである。今必要なのは、民間の方針に対して、「一
カ首切りも許すな!」と労働の斗争を全労働階級の斗争で守れ
」と位置し、徹底的に斗つことである。

總評の方針は、すべて

方針が貫徹されている。秋手は、春手のとおり、いろいろのスコープを並べて示されるだろうが、然るに争点と、日政組の争点、安保斗争がその中心である。参考は、右の通り。日政組も各地で斗争は開始されているが、去年に比べるなら、極めて困難である。神奈川方針の御算算が「日政組」とつて打車だしなどといわれる状況だ。関東ブロックは、研修会威力阻止の方針を放棄した。四国・中国の研修会ボイコット斗争がはじましく半われている同じ9月22日、日政組全国代表者会議は、「組織の立て直しと検討」(東京)し、「葱原方針は、どうなう」、糸井は一方針を決定した。高知、福岡の体調斗争は、孤立と条議は、全国斗争への發展の展望はほとんどない。翌八月の夏上げ斗争も、階級情勢を変化させようなどもので発展するとは云えない。

以下、車労組は、固執からの孤立のなかで、22日のストライキの上、余儀なくされている。

これが現実である。

（4）安保斗争を西めるいくつかの傾向
こうした全斗争のなかで、安保斗争は、總評等のサ木によつて
25の段階から大して大きく進んでゐるとはいえぬことさ
れなければならぬい、部分的に、いくつかの地評、共謀会議等の

動をつぶさにこれ、と不思ト体制(一主義も早く確立する)これが今後堅だ。こうした統一行動力曰と斗争態度を決定するのとサボる二点は、全半券をおくらすものである。12月20日、「これがオク次統一行動ならハシ」10、少ひ一ヶ月余がまたブランクノ才で次オク次統一行動を次に明確に提起せよ。ゼ不思トミルフ級、上明確にして、御印付ちほだめた。先制的にゼ不思トとギうのだ。・臨時国会要旨ゼ不思ト・さ

では、ストックは確立されつつあり、懸念にストックを集約することになつてゐるが

總評等のサボタージュとして、其手
を並列に為て、かくらの前進をから二つ

的活動にあて、かなりの前進をかちこつた。7月16日ノオノ回安
保矣斗国民会員全体会式も、わが同賛の積極的な趣向による明
確なゼヌクト方針の提起によつて、会議の討論の基本的方向とわ
れわれの方針で黄政、10、11日ゼヌストを不動の方針にして確
立しつた。

の実績及優秀の下に大きな成果をかうとしている。毎年大会はセ
ンス方針、東京大手のゼネクト提起、そして4月20日の東京書
博美術大會は「日本帝国主義アルシニアに対する非妥協
斗争、とくに安保争事をとらえ、安保改定調印阻止、省内倒閣
、駐日公使署襲撃不スト、といふ戦的方針が決定された。これ
は今后の大手の基盤、とくに青年大手と並じての其の影響力の
拡大といふ方針に、一大きな影響を与えるのであろう。大手合戦、特
に青年大手と南北、義大も、安保を主ひゆく組織とせよ
だが、同時に、その競争とも認識せよ、運営だけ、大手合戦はそ
のまま、サイエントのようやく年輪を重ねてはおりぬ。
実質に行動

10・30、安保改定阻止のため、ゼネストを立て!!
こうした中で、すなわち労働者運動は、全體として民同反革命の行為を進行によって大して糾撃できない状況にあり、安保斗争もまた彼日の斗争としてゼネストへ組織される方針は、財團には起されていなかで、学生運動の状勢は、安保改定阻止の際にかたかく明確に提起し、労働者階級に斗争の方向を示さし不¹¹
す方向で、学生のゼネストを組織することである。
全体の安保斗争のスケジュールは、9・18以来、10月20日まで、
プランクにされていり、
しかも、その10月20日も、「アコロ」と云ふだけではないが、決議は、20日にした。いろいろの口実の下にふたたびスケジュ¹²
ルとくりかえられる延滞は充分にある。一ヶ月つゝ、我々は、
10月20日前に、終戦年になじむ年でも、定期的行動を組織して

三 学生運動における

村田の仕事

前章は外から見れば、政府の方針は漸次進歩的であるが、全体としては、ク、8日は「ランク」となつたことは見逃せぬ。そして、今は、下からの安保斗争に対するさしあげが、増大するばかりで、二つの方面で、斗争がそうされようとしている。**甲**は、安保斗争を合理化、首切り反対、賃上げ斗争とともに、しかもそれが独自に、斗争を組織する方向ではなくて、他と併列される一つのスローガンとして、あるいは他の斗争によりかえて、おこなわれようとしている。9・18斗争が東京では安保より砂川が前面に出たことは前に述べたが、これは、次は日中國交復讐の方向にゆがめられたりかられるおそれがある。すなわち、フルシチヨフ訪米や、日ロケート問題で、「平和勢力は大きく前進した」結果、ブルジョア内部に矛盾が大きくなつていて、石橋訪中は、そのあらわれであり、安保斗争は有利になつた。日中國交の斗争をおこしすぎるなど、いう日共の方針である。(通達104参考)これらに最大の危険は、安保斗争が秋ギーの一つのスローガンに解消されることだ。春ギーのよきに、現に10月20日ごろのオカ次範一行動にしても、安保で斗争といつよりも、「後援、失業反対」などだ。それで干われる傾向が強い。テ、タのオカ次範一行動が、ほ教組にあるべきだとうように。

太田は公然といつ「現状は、全軍が安保を斗える力があるわけではなし、——、秋ギーが各協したらどうなるか、活動運動が来年の春ギーも安保も斗えないだろう。今日秋ギーの斗いを守ること、全軍座バ機労の斗いに集中していかねばならない。」(19日、評議員会)これでは、安保改定は阻止できない。安保阻止のために、独自にも手を貸し、そのためには独自に討論と行動を組織し、安保阻止のため実力行使を打つ体制をつくることにして、安保斗争に勝利しない。

甲に、斗争のスケジュールを「まかし、行動形態をひくめる」として、斗争を行ふうとする方向、ゼストと目標に定め、それまでに、何時、どの形態で斗うかのスケジュールをきめて統一を行

(10)

全体の斗争の発展をしめなおしつつ、10・20の斗争に全力をあげて参加し、10・20のオク次第一行動を経たスケジュール努力ンパニアで止めるのではなく月迄不況のための、準備としての内審はつまりとまればならない。我々は、こうしたものにして、オク次第一行動をかい。一歩も早くせ不況へとおこすゆゑあければならない。

11月中、下旬と設定されたオク、12次第一行動と、民運幹部と日本共産の裏切りを排除して、断行として、ゼネストと、斗争ことが、必要であり、そのためには、我々が、学生運動によつて、安保不況の「ゼネスト」の暴走高くかかげつゝ、現実に学生運動と効果的に先駆的に爆発させねばならない。学生波で、社大はストライキ斗争をたたかうこと、必要だ。そして、その力がわれわれにはある。

これは、10・30ゼネストだ！

去年の春、原案、斗争を想起せよ。10・30の大ゼネストでピーコに達した学生の斗争が、11・5のゼネストと重なったか？

その上、去年と今年では、運動活動の状況が同じでない。現状は、労働者の斗争があるが、労斗会戦に復帰して、学生の斗争と組み合ふことが可能であり、またそれが立派である。しかし、この状況では、また、との事である。研究会の斗争がある、運動準備滞している。彼らの斗争は、決して、学生運動をして、学生運動を止めない。

さて、金子華の登場は、現状の同盟の活動として、これ、これが最大の重要な点だ!!

10・9・10・20、そして、10・30のゼネストがその方針だ。

10・30の金子華のゼネストは、全学生に実現口を開けられた。

そのために、今からただちに準備に入れ。このゼネスト—去年の10・20のように、労働運動の一定の結果

現在の同盟の活動として、これ、これが最大の重要な点だ!!

この結合は、さうでも平穡できない、学生運動のゼネスト—の完成だ。

ついで、反対派の要求は、いたしまり、新左派は正統化し、一層實権的修正を開始した。過去「現代の理念」発表は、その実形であり、これを契機として、党内斗争は、隠密としたものから公然なるものに転化しようとしている。

19中春での彼らのみじめな敗退は、こうした状況の反映があつた。中春は、彼らの立命體で、大敗、名古屋等、一部がいよいよ敗退、しかし、それでもまだ、しかも対応はだが、同體の評議、安藤のところへ日本帝國主義自立の問題へ等とめぐって対立し、「まとまらず、堆積する」の対策も提出されずにおわつたのである。彼らは現在共産党としては、学生運動に対する何の展望も何の統一した方法も持つてない。

別懇親会では、学生の内部では冷飯を今までくいつづけてきたが、今改進的改良派のため、活動を開始して、例えば、早大内に所感派は早大における野口一派の権力を奪するための注

意に入った。等々、彼らの努力は、東京では、都立、中学校の一部を、関西の立命體で、大阪、名古屋等、一部がいよいよ敗退、しかし、これは理性的支柱などはまったくなく、あるいは、民族主義と大躍進主義と森林実業論の二つで、大衆斗争の發展のなかでは、容易に粉砕されるでしょう。堂内及対策これまで、「ドロフキスト」の尖として、党中央は最も忠実に従つてきただが、今や、所感派との食うたる倉庫の斗争は、さしまれ、勝敗けは裏切り（東京、大阪）で、多少、氣量のある奴は所感派の斗争に立つていて、例えは東京教育委員会、農林省の委員長選挙では、所感派が立候補したため、日共教育大綱総連は選挙運動と木口コツトし並に多くの敗退した等、だがこれらは、境内反対派の中でも、本質的に改良主義者であり、官僚主義者である機運の改良派は、左から、われわれによつて大衆的基礎を侵され、右からは、所感派の森林実業論本風に敗退、選挙運動を辞めたため、木口コツトし並に多くの敗退した等、だがこれらは、境内反対派の中でも、本

それは、容易に粉砕されるでしょう。堂内及対策これまで、「ドロフキスト」の尖として、党中央は最も忠実に従つてきただが、今や、所感派との食うたる倉庫の斗争は、さしまれ、勝敗けは裏切り（東京、大阪）で、多少、氣量のある奴は所感派の斗争に立つていて、例えは東京教育委員会、農林省の委員長選挙では、所感派が立候補したため、日共教育大綱総連は選挙運動と木口コツトし並に多くの敗退した等、だがこれらは、境内反対派の中でも、本質的に改良主義者であり、官僚主義者である機運の改良派は、左から、われわれによつて大衆的基礎を侵され、右からは、所感派の森林実業論本風に敗退、選挙運動を辞めたため、木口コツトし並に多くの敗退した等、だがこれらは、境内反対派の中でも、本

遂のためには、なによりも、わが同盟各組織の意志統一、全階級斗争の現状、安保斗争への展望、その中での同盟の任務と、学生運動の任務についての徹底的で深い認識の統一が絶対に必要だ。しかるのち、この意志の統一を、全階級家にまでおしふづく!! 9月、10月にかけての試験休日の期間は、こうした意志統一と10月斗争の万全の準備のために一方の態勢もなくせ!! (1) 既生戦線内に残存する日和見的諸党派の影響を根絶せよ!! 金澤連考4回大会において、我が同盟と、学生運動の指導権を掌握して以来、3ヶ月余の間に、4回大会においては、一定数の代役選出して、反対派を形成した諸派は、我が同盟の指導権までの斗争の大歴史の発展の中で、急速に分離し、没落を進めていく。9月45日の中春は、それと最ももあらわに示している。彼らと早生戦線から最終的に、開放し、日本革命運動でのその支配力を断ち切るために、徹底的に手づべき時は今だ!

日本共産党

米国での10ヶ月にわたるのつた分裂しつつある

「現代の理論」の癡禁は、このス派の斗争を公然たる今派内斗争にまきだしすすめようとしている。日本は、ク画大会にあつて、宮本と所感派との聯合が成立し、以来、日本、人間、社会、政治、春田正一等が新左派と形成し、日本共产党（=志田・志田一派）と構造的派を形成し、民主派（=大泉・志田派）が、の限界に立つている。こうして、彼らの内部にもしくつつの分裂が生じはじめた。日々、我々の「ドロフキスト」の下に大口的に斗争を展開し、日本中央の家業として登場していく。一見して、ハドクスーにもナシセシムがため、所感派学生運動のなかでは、代々共産党の主流には、リキナ、トロフキスト仲りしに似しても、まだ多少イーニー、スコモニーの下に大口的に斗争を展開し、日本中央の家業として登場していく。一見して、ハドクスーだが、こうして樹木下の共産党が、大衆斗争から完全に孤立するというかで、党的危機は深刻化したが、4回大会が近づく

彼は、したたか、学生運動全体に対する展望を持ちえない。彼らの日共党中央反対派の中、最良の部分、内斗等の激化がながく、刻々と変化し、我々に接近し、党内に止まるベキが、の限界に立つている。

こうして、彼らの内部にもしくつつの分裂が生じはじめた。日々、我々の「ドロフキスト」の下に大口的に斗争を展開し、日本中央の家業として登場していく。一見して、ハドクスーのも学生運動内においては、群小陰謀も集団の一つに散播せしもの最良の部分は、我々の側に獲得しなければならぬ。

革命的共産主義者同盟

は、金澤連考4回大会が4回大会まで、極めて

彼は、したたか、学生運動全体に対する展望を持ちえない。彼らの日共党中央反対派の中、最良の部分、内斗等の激化がながく、刻々と変化し、我々に接近し、党内に止まるベキが、の限界に立つている。

こうして、彼らの内部にもしくつつの分裂が生じはじめた。日々、我々の「ドロフキスト」の下に大口的に斗争を展開し、日本中央の家業として登場していく。一見して、ハドクスーのも学生運動内においては、群小陰謀も集団の一つに散播せしもの最良の部分は、我々の側に獲得しなければならぬ。

4月末の革共四大会は、の数を、僅かな代試算によつて、学生運動に於ける所感派は、立候補したため、日共教育大綱総連は選挙運動と木口コツトし並に多くの敗退した等、だがこれらは、境内反対派の中でも、本質的に改良主義者であり、官僚主義者である機運の改良派は、左から、われわれによつて大衆的基礎を侵され、右からは、所感派の森林実業論本風に敗退、選挙運動を辞めたため、木口コツトし並に多くの敗退した等、だがこれらは、境内反対派の中でも、本

見直され、教科書問題、ベビーブーム問題等の問題

學生会の運営をめぐる問題として、彼らは、学生会に於ける組織化の主要によつて保つとしている。我々は、彼らの本質を、今、6月斗争における彼らの活動、学生運動の妨害活動と徹底的に追求し、組織運営の改良主義的、運営的・性格を、合理化斗争に対する我々の全面の方針の対置に立てて、あくまで、我々が歴史と学生運動の先導に立つことを止め、彼らの独自の存在価値を喪じさせ、最後的に論破しなければならない。

国際主張共産党

は社会党然の入紙機ととり、民場的合理組織をつくつて運動を繕けてきたが、八月四日共三回連合で「社会党内での「ロコキット特りの激化」を理由に開闢した。

しだがつてこの小グループについての独自の会計は、社会党的問題として検討されるであろう。

社会党

国際主義共産党的感覚など、社会党的保守的傾向から今運動は一層社民としての本質をあらわにしあがめた。一方、東大の4月斗争における代々木とか駿台「安保斗争、反対」の裏切りに明らかである。この最も悪辣な右翼、今は、大學生中の中心、完璧な左派として認めなければならない。

X X X

現在、全体の階級斗争の感覚と革命への感覚に立つて、学生運動を指導しているものは、我共同盟のみである。他党系は全くあらず今後、西今解といけ、サロハは衆議院へ参選してある。彼らの最終的結論は、秋の安保ゼネストも、学生運動で決着するといつ考へる所によつての外、可能ならである。

X X X

田舎的諸流派が最初に解散せし、ブルジョアジーの攻撃及反撲に強化され、階級斗争が自然発生的にも強化しつゝあるにもかかわらず、まだ政治はその組織の生死を求める階層的斗争に直面しているにもかかわらず、労働者階級は、労働斗争が政治経済に入つてもつかわらず、労働者階級は、民族支配の闘争にしかつたから田代の無限のエネルギーをもつてやせりせしもの。今、学生運動は、安保斗争をゼネストにがつて、全斗争に躍進をひらく壯勢を演つてゐるが、

社連

田舎的諸流派は、原則通り下さる、大學生運動によつて、新井士郎國鉄当局は、原則通り下さる、100の新会員では、原則通りを正式に決定し、24日文部省に通報した。明るみに、それは國鉄の合理化五十年計画の一への結果として現れたものであつて、全国的道上でのやうにして抱えられねばならぬ。大學生に大學生行動を組織し、この道上にを廢止し撤回するべし。東京では、(金)最初の折衝アモト(國鉄当局)にかゝって組織する大學生の会工作センターをつくづくしておこし、同時に消滅しておこし、この本質を明かにして、重なる政治斗争の終止符には、安保斗争とわりかんたるは、無理じめいが付かざるもので、いかがに續ける必要はない。